

| | | | | | | |
|-------------------|--|------|-------|-----------|----------|----|
| 授業科目名 | 保育の心理学Ⅱ | 教員名 | 野崎 秀正 | 免許・資格との関係 | 小学校教諭 | |
| | | | | | 幼稚園教諭 | |
| 授業形態 | 演習 | 担当形態 | 単独 | 卒業要件 | 保育士 | 必修 |
| 科目番号 | TAI202 | 配当年次 | 2年次後期 | | こども音楽療育士 | |
| 単位数 | 1単位 | | | 小幼コース | 選択 | |
| 科目 | | | | | | |
| 施行規則に定める科目区分又は事項等 | | | | | | |
| 科目 | 告示別表第1による教科目 | | | | | |
| 系列 | 保育の対象の理解に関する科目 | | | | | |
| 一般目標 | <p>保育の心理学のテーマは、教育心理学や発達心理学の分野で明らかになっている理論的知見を基に、保育実践における発達の捉え方と適切な援助の方法について考えることである。具体的には、以下の授業目標を達成することを目指す。</p> <p>(1)乳幼児の心身の発達の特徴について発達心理学領域における理論を学び、保育実践について理解を深める。</p> <p>(2)生活と遊びを通した学びとは何かについて考え、その経験における学習の過程について理解する。</p> <p>(3)保育における発達段階別の発達援助の方法について学ぶ。</p> | | | | | |
| 到達目標 | <p>(1)乳幼児の心身の発達の特徴について発達心理学領域における理論を学び、保育実践について理解を深める。</p> <p>1)乳幼児の発達に関する代表的な知見と保育実践との結びつきを理解する。</p> <p>2)環境を通した保育という視点から、発達を促す環境の重要性を理解する。</p> <p>(2)生活と遊びを通した学びとは何かについて考え、その経験における学習の過程について理解する。</p> <p>1)乳幼児の生活と遊びを通した学びの重要性を理解する。</p> <p>2)子どもの生活と遊びを通して、学びを促す手法について説明できる。</p> <p>(3)保育における発達段階別の発達援助の方法について学ぶ。</p> <p>1)発達段階ごとの援助の違いについて説明できる。</p> <p>2)継続的な発達援助の必要性について説明できる。</p> | | | | | |
| 授業の概要 | <p>保育の心理学Ⅱの授業では、保育の心理学Ⅰで学習した基礎的な心理学の知識を踏まえて、子どもの心身の発達と保育実践について学生同士の話し合いやグループでの協同学習を用いた演習形式の学習方法により理解することを目指す。また、日常生活と遊びにおける経験から幼児は何をどのように学んでいるのかについて、子どもの学習の過程を理解する。さらに、こうした保育場面における子どもの発達を促すために、保育者はどのような発達援助を行えばよいのかについて、主に保育実践における様々な事例を通して学ぶ。</p> <p>授業形態は演習とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。</p> | | | | | |
| ディプロマ・ポリシーとの関係 | 本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。 | | | | | |
| 授業計画 | <p>第1回：保育の心理学Ⅱの科目が設立された背景と学習する意義について既習の保育の心理学Ⅰの内容との関連から学ぶ。(目標(1)-1))</p> <p>第2回：乳幼児の発達を理解するために、発達をどのように捉え、またその様子をどのように観察するのかについて学ぶ。(目標(1)-1))</p> <p>第3回：人格、情動、認知的側面における乳幼児の個人差について、発達との関わりから理解する。</p> | | | | | |

| | |
|-------------|---|
| | <p>また、個人差や発達差に応じた保育とはどのようなものかについて考える。(目標(1)-1))</p> <p>第4回:乳幼児と環境の相互作用に着目し、とりわけ環境としての保育者の役割について理解を深める。(目標(1)-2))</p> <p>第5回:保育場面における乳幼児集団の特徴とその発達的变化について、環境との関わりを中心に理解する。(目標(1)-2))</p> <p>第6回:乳幼児の日常生活における学びについて、特に数と読みことば、書きことばの理解を中心に学ぶ。(目標(2)-1))</p> <p>第7回:乳幼児が日常生活の中でどのような経験をし、学習に繋げているのかという基礎的な過程を理解する。(目標(2)-1))</p> <p>第8回:乳幼児同士の相互の関わりと関係づくりについて、自己主張と自己統制の発達との関連から理解する。(目標(2)-1))</p> <p>第9回:遊びを通して、乳幼児の発達は如何に理解され、また促されるかについて、実践場面を参照しながら学ぶ。(目標(2)-2))</p> <p>第10回:乳幼児の生活・遊び・学びの関係性について理解を深め、その過程をどのように支援するかについて学ぶ。(目標(2)-2))</p> <p>第11回:生涯にわたる生きる力の基礎を培うための、保育者の関わりや環境構成について理解を深める。(目標(2)-2))</p> <p>第12回:保育場面での基本的生活習慣の獲得に向けた、保育者の発達援助のあり方について学ぶ。(目標(3)-1))</p> <p>第13回:乳幼児の自己の主体性形成の過程を理解するとともに、その過程に応じた発達援助のあり方について学ぶ。(目標(3)-1))</p> <p>第14回:発達の連続性に着目し、縦断的な発達援助を行っていくためのアプローチについて理解を深める。(目標(3)-2))</p> <p>第15回:現代社会において、乳幼児の発達課題に応じた援助はいかに行われるべきかについて学ぶ。(目標(3)-2))</p> <p>期末試験</p> |
| 学生に対する評価 | <p>授業で取り組む課題(レポート・ワーク・小テスト等)の内容と学期末試験の結果による総合評価を行う。評価の割合はレポート等の課題が全体の30%、期末試験の成績が全体の70%とする。</p> <p>なお、レポート・ワーク・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 |
| 時間外の学習について | <p>(事前・事後学習として週2時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習:毎回次回の予告を行い、次回までの課題を提示する。</p> <p>事後学習:学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努めることとする。</p> <p>授業の冒頭で、前回の授業内容についての説明を求めることがある</p> |
| テキスト | <p>授業時に資料、ワークシートを配布する。</p> |
| 参考書・参考資料等 | <p>参考書:文部科学省・厚生労働省『幼稚園教育要領・保育所保育指針(原本)』チャイルド本社</p> <p>参考資料等:適宜提示する。</p> |
| 担当者からのメッセージ | <p>授業への主体的な参加を期待します。</p> |
| オフィスアワー | <p>火曜日・木曜日 14:40~16:10</p> |